

新編武藏國風土記稿

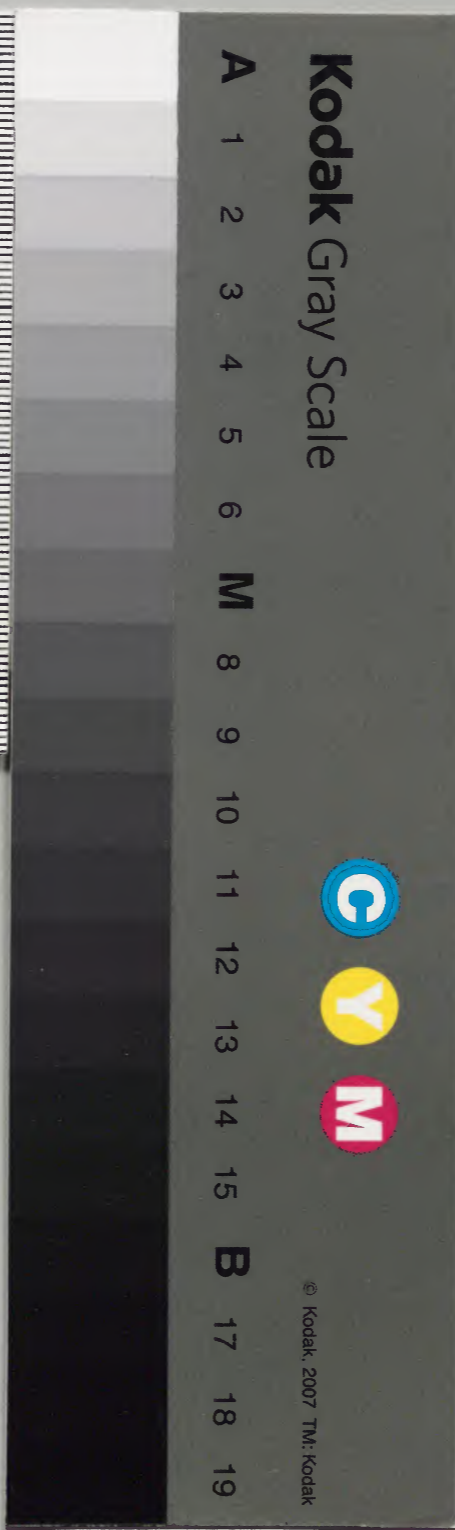
多磨郡

卷之百二十四

和書門		
類	號	一六五〇
函	架	二三三
冊	架	二五五

內閣文庫		
類	號	一六五〇
冊	架	二三三
函	架	二五五

內閣文庫		
番號	和	16510
冊數	255(124)	
函號	173	210



新編武藏風土記卷之二十一

多摩郡

方

江

山

上

中

本

表



新編武藏風土記卷之一百二十四目錄

多磨郡

之三十六

野方

領



江

村

片山村

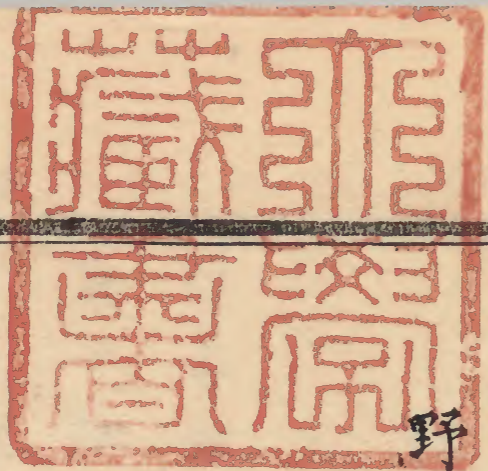
上高田村

中野村

本鄉村

本郷新田

淺草文庫



堀之内村

雑色村

和田村

新編武藏風土記卷之一百二十四

多磨郡之三十一

江古田村

江古田村ハ東ノ方豊島郡ノ界ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失フ。江戸日本橋ヨリ行程三里。村名ノ起リヲ詳ニセズ。鎌倉大艸紙ニ文明八年四月。太田道灌。上杉刑部少輔。千葉自胤等。江古田原沼袋ト云所ニ馳向フトミユ。サアレハ古キ地名ナルヲシルベシ。猶下ニ

録スル所。古戰場ノ條下ヲ合セシルベシ。又小田原
北條家人所領役帳ニ。太田新六郎知行當所五貫文。
寄子恒岡越後守配當ノ分ト見エタリ。コノ越後守
ハ。永祿九年。上総國三船臺ノ合戦ニ。太田源五郎氏
資ト共ニ討死シケルニ。實子ナケレハカレカ弟ノ
僧。泰翁禪師ト号シテ。其以埼玉郡平林寺ニ住職シ
在ケルカ。家名断絶スヘケレハ。沙門ノ事ナレト。越
後守カ一跡相續ノ了。下知ニ任スヘキヨシ。申ツカ
ハシケル文書ヲ藏セシカ。彼寺寛文年中。新座郡野
火留村ニ轉移シテ。今モ藏セリト云村ノ廣サ東西

十五丁。南北ハワツカニ其半ニ至レリ。南ハ沼袋村
ニトナリ。東ヨリ北ヘハ豊島郡葛ヶ谷。長崎。中荒井
ノ三村ニ接シ。西ハ上鷺ノ宮及ヒ豊島郡中村ニツ
ツケリ。村内平ニシテ水田ハ村ノ中央ニアリ。民家
百十軒。東北ノ方ニ住ス。土性ハ野土ニテ真土モ交
ハレリ。村ノ中ホトニ一條ノ道アリ。西ノ方上鷺ノ
宮村ヨリ。東ノ方豊島郡葛ヶ谷村ヘ達ス。是往古ノ
街道ノ名残ナリトイフ。其幅ハ二間餘アリ。今石神
井村ヨリ江戸工通フ道是ナリ。村ニカ、ルヲ二十
二町ハカリ。當村檢地ハ。天正十九年九月。伊藤小右

衛門。沼上伊豫。封四郎右衛門。池上作藏等。紀シテ伊
賀ノ者ニ賜フト云。此頃ハ民家モ漸ク十軒ハカリ
アリニトソ。正保ノ頃ノモノニハ。野村彦太夫為重。
及ニ植村五郎左衛門。村越清二郎。小林長五郎知行
トアリ。寛文四辰年ノ檢地ハ。則野村彦太夫カウケ
タマハリニテ。又元禄九子年。細井九左衛門タ、セ
リ。ソノ後御代官シハ、々々遷代アリテ。今ハ小野田
三郎右衛門カ支配所ト。伊賀ノ者ノ給地ト。入會テ
アリ。

高札場

三ヶ所。一ハ小名丸山。一ハ東ノ方。一ハ小
名大原ニアリ。

小名

丸山 村ノ西ノ方ニアリ。

本村 東ノ方ナリ。

大原 北ノ方ヲ云。

本田屋鋪 村ノ中程ヲ云。

柏崎屋鋪 南ノ方ナリ。

小川屋鋪 北ノ方ナリ。

大籠原 西ノ方ナリ。
小籠原 前ノツ、キナリ。

水利

仙川用水 多磨川上水ノ分水ナリ。新座郡上保谷村ヨリ入。同郡竹下新田ヲ経テ。此ホトリニ至リテハ仙川用水ト云。豊島郡中荒井村ヨリ引入。石神井村三寶寺ノ池水落合。上鷺ノ宮村ノ北ノ方ヨリナカレ來リ。村内へ入處々ノ水田ニツ、キ。流末ハ豊島郡葛ヶ谷村へイタル。村ニカ、ル

八丁ハカリ。

神社

氷川社

除地 三段 七畝

西ノ方ニアリ。村ノ鎮守ナリ。

社ハ五尺四方。上屋三間ニ二間。南向。前ニ石ノ鳥居ヲタツ。松杉ノ森アリ。鎮座ノ年代詳ナラス。例祭ハ九月廿九日。

金峰社

除地 八畝

東ノ方往還ノ側ニアリ。社ハ三尺

ニ四尺。

神明社

除地 三段

小名 籠原ニアリ。社ハ三尺ニ四

尺。東向。

第六天社

除地
四畝

本村ニアリ。社ハ三尺四方。右ノ

四社トモニ。村内東福寺持。

寺院

東福寺

除地
五畝

村ノ南ノ方。上鷺ノ宮村界ニアリ。

金峰山。世尊院ト号ス。新義真言宗ニテ。中野村寶

仙寺ノ末。此寺元ハ村内御嶽山ノ邊ニアリシヲ。

年月詳ナラス。此處へ移シタリト云。本堂ハ八間

半ニ七間。本尊不動ノ立像。長一尺二寸。開山詳ナ

ラス。法流ノ祖ヲ法運ト云。享保七年十一月五日

示寂。開基ハ村民次郎右衛門カ先祖ニテ。天正年

中ノ起立トイヘト。其詳ナルヲ傳ヘス。

鐘樓 本堂ノ西ニアリ。鐘ハ宝永七年ノ銘ヲ彫

レリ。

蓮華寺

年貢地
内三畝

東ノ方豊島郡葛ヶ谷村界ニ

アリ。日光山ト号ス。日蓮宗ニテ。池上村本門寺末

ナリ。當寺モト橋樹郡星川村ニアリシヲ。七十年

ホト以前此地ニ移セリト。開山ヲ日山ト云。示寂

ノ年月詳ナラザレト。第十一世日道ハ。貞享二年

七月十二日寂ストイヘハ。古キ寺ナルヘシ。中興
ヲ日匡ト号ス。寛保元年十二月某日寂ス。開山ヨ
リ第十九世ニアタレリ。過本帳ヲ閱ルニ。ソノ裏
ニ當寺開基日山。檀越大龍院。起立願主深野氏ト
アリ。又客殿ノ願主淨心俗称義右衛門ト見エタ
リ。思フニ淨心信仰ノアマリ。堂宇建立ノ願ヲ立
シカ。カク檀家モ乏シクテハ。後破壊ニ及ハント
キ繕治ノ了。オボツカナキコトニオモヒ。此地ヘ
引移。堂宇ヲ建立セシカハ。村ノ旧家深野伊右衛
門若干ノ地ヲ寄附セシナルヘシ。此伊右衛門ハ。

當村名主孫右衛門カ本家ナリ。又入湖郡川越町
朝田山行傳寺ハ。永和年中ノ草創ニシテ。開山日
山ハ。池上本門寺第四世ノ僧ト云。則當寺開山ト
同人ナルカ。深野氏ノ了後ノ旧家ノ條ニ出セリ。
合セシルヘシ。客殿ハ三間ニ三間半。南向。本尊日
蓮ノ坐像。長二尺八寸ナルヲ安ス。

舊蹟

古戦場 鎌倉大杉紙ニ云。文明八年。四月十三日。太
田道灌。江戸ヨリ打テ出。豊島平左衛門カ平塚ノ

城ヲ取卷。城外ヲ放火シテ歸リケル所ニ。豊島カ
兄助。解由左衛門ヲ頼ケル間。石神井。練馬ノ西城
ヨリ打テ出。攻来リケレハ。太田道灌。上杉刑部少
輔。千葉自胤以下。江古田。原。沼袋ト云所ニ馳向ヒ
合戦シテ。敵豊島平左衛門ヲ初トシテ。板橋赤塚
以下百五拾人打死スト。云云。又鎌倉九代後記等
ニモ此ヲヲノス。思フニ平左衛門ヲ初ノアマタ
ノ者。當所ニテ討死セシナレハ。古ハ人家モ稀ニ
シテ。渺々タル原野ナルヘシ。サレハ古戦ノ迹ト
イフ所。傳ハルヘキモノナルユヘ。土人ニ尋ルニ。

其所ヲ辨セスト云。

片山村

片山村ハ郡ノ東界ニアリ。江戸日本橋ヨリ行程三
里餘。村ノ廣サ東西五丁餘。南北四丁ハカリ。南ハ上
高田村ニ接シ。北ハ江古田村ニトナリ。西ハ下沼袋
村ニ及ヒ。東ハ豊島郡葛ヶ谷村ナリ。民家ハ僅ニ十
六軒。北ヨリ東ノ方ニ居住ス。土性ハ野土。高低アル
村ナリ。當所ハ御入國ノ後、年代詳ナラス。細田嘉
右衛門ニ賜ハリ。今ニ尚ソノ子孫嘉右衛門カ知行
所ナリ。正保四年八月。伊奈半十郎檢地ス。

高札場 五村ノ北ノ方ニアリ。

小名

宮下 村ノ南ノ方ヲ云。

北原 文字ノコトク北ノ方ニアリ。

山川

川 村ノ北境ヲ流ル、一丁四餘。水元ハ井草村妙

正寺池ヨリ出。下沼袋村ヨリ村内ニイリ。流末ハ

上高田村ニ至ル。用水ニハ沢水ハ堰ヲカケテ引

分。所々ノ水田ニソ、キ。末ハ上高田村へ達ス。村
ニカ、ル一三丁ハカリ。

神社

天満宮 北ノ方ニアリ。村ノ鎮守ナリ。本社ハ一間

四方。南向。拜殿二間四方。前ニ鳥居ヲタツ。

稻荷社

除地前ノ社ヲ
合テ百五十坪

前ノ社ヨリ少シク東へ

ヨリテアリ。社ハ四尺ニ六尺。西向。右ニ社トモニ。

上高田村東光寺持。

上高田村

上高田村ハ郡ノ東豊島郡ノ界ニアリ。江戸日本橋ヨリ行程三里餘。村内平地ニシテ。東西十丁。南北十三丁。西ハ新井村ニトナリ。南ハ中野村ニツ、キ。東ハ豊島郡上落合村ニ接シ。北ハ同郡葛ヶ谷村ニ及フ。土性ハ野土。民家六十軒。村ノ南寄ノ方ニ道アリ。西ノ方新井村ヨリ。南ノ方中野村ニ達ス。村ニカ、ル丁十丁ハカリ。是江戸エカヨフ道ナリ。當所ハ御入國ノ後。年月詳ナラズ。細田嘉右衛門ニ賜ハリ。

十

今ニソノ知行所ナリ。檢地ハ正保四年八月。伊奈半
十郎忠治。ウケタマハリテタマセリ。

高札場 村ノ中程ニアリ。

小名

北原 中程ヨリ西北ノ方ヲ云。

上ノ山 東北ノ方ニアリ。

山川

川 沼川ニテ水元ハ井草村妙正寺池ヨリ出。西南
ノ方新井村ノ境ヨリ村内ニ入。九十丁ホトナカ
レ。赤流ハ東ノ方豊島郡上落合村ニ至。ソノ赤ハ
井頭上水ニ落入。又北ノ方片山村ヨリ入。村界ニ
カ、リ。赤流ハ下落合村ニ至ル。又此水ヲ村内ヘ
引入用水トシ。下流ハ上落合村ニ至ル。村内ニカ
、ルヲ三丁余。イツレモ水源ハ妙正寺池ヨリ出
ルト云。

神社

永川社 除地百五十坪 東ノ方ニアリ。村ノ鎮守ナリ。本

社ハ一間四方。拜殿二間四方。東向。前ニ鳥居ヲ建

天満宮 除地四畝 東光寺ノ北ノ方ニアリ。社ハ六尺

四方。南向。小リキ鳥居ヲタツ。

八幡社 除地二十歩 東北ノ方ニアリ。一間四方ノ

社ニシテ南向ニ向フ。鳥居ヲタテリ。例祭ハ六月十

七日。右ノ三社イツレモ。村内東光寺ノ持。

寺院

東光寺 境内除地八畝廿六歩 外ニ六畝五畝 小名山ノ上ニ

リ。日照山。阿彌陀院ト号ス。新義真言宗ニテ。中野

村寶仙寺末。客殿七間四方。南向。本尊藥師ノ立像。

長一尺五寸ナルヲ安ス。開山開基詳ナラス。

大日堂 年貢地五十坪 南ノ方ニアリ。三間四方。南向。坐

像長三尺一寸。厨子ノ内ニアリ。大乗院持。

大乗院 大日堂ノ側ニヲレリ。當山派ノ修験ニテ

普覺山ト号ス。江戸靈巖島福本院配下。大日ヲ本

尊トス。

中野村

中野村ハ郡ノ東ニアリ。郷庄ノ唱ヲウシナフ。江戸
日本橋ヨリ行程二里半。村名ノ起詳ナラサレト。此
邊スヘテ武藏野ナレハ。ソノ中ノ村トイフ意ナル
カ。己ニ古クハ上野中野下野共ニアリシカ。其後上
下ノ名ハ失ヒテ中野ノミ残りシナリト云。又土人
ノ傳ヘニ云。堯惠北國紀行ニ。文明十九年。水無月廿
八日。武藏野ノ内中野トイフ處ニ。平重俊トイヘル
ヲ催シニヨリテ。渺々タル朝露ヲ分入テ瞻望スル

何レノ草葉ノ末々モ白雲ノミ掛レルヲカキ
リト思ヒテ。又中ヤトリリ。里へ歸リ侍リテ。
露ハラフ道ハ袖ヲムラ消ノ草葉ニカヘル武
藏野ノ原トアリ。小田原家人所領役帳ニ。七貫文島
津又次郎。中野内正歎寺トアリ。又太田新六郎知行
八拾四貫文。中野内阿佐ヶ谷土志田源七郎一貫文。
中野内大場ナトミエタリ。コレヲモテ見レハ阿佐
ヶ谷大場ナト。イツレモ古クハ當村ノ内ニ屬セシ
カ。又ハ此邊ノ村ニテ當村ハコトニ廣カリシカハ。
スヘテ中野トイヒ習ハセシヨリ。イツトナク中野

ノ文字ヲ負セテ稱スル。二十リユキニヤ。既ニ
卯右衛門ガ所藏ノ文書ニ。中野郷五ヶ村トミエタ
リ。村ノ廣サハ東西十六丁。南北二十丁餘。東ハ神田
上水ヲカキリ。川ノ向ハ豊島郡柏木村ナリ。西ハ當
郡高圓寺村ニトナリ。南ハ本郷村同新田和田村等
ニ接シ。北ハ新井上高田ノ二村ニ及ヒ。豊島郡上落
合村ニモツケリ。村内平ニシテ土性ハ野土ナリ。
用水ニハ神田上水ト云。是ハ田方十一町ノ所ニ
カキレリ。残りニ拾町餘。所々ノ清水洞ル、ユヘ
早損ノ患少ナカラス。民家三百四拾五軒。當所ハ

御入國ノ後ヨリ御料所ニシテ。檢地ハ寛永十六年。其後延寶二年。中川八郎左衛門。關口作左衛門。ウケタマハリテタビセリ。又享保十七年。寛播磨守正鋪。承リテ新墾ノ所ヲタビセリ。御代官ノ迂代。寛永十一年ヨリ。同十九年マテ。伊奈半十郎。同二十年ヨリ。正保四年マテ。守屋左太夫。慶安元年ヨリ。萬治元年マテ。野村彦太夫為重。寛文元年。彦太夫名ヲ藤右衛門ト改メ。天和二年マテ支配シ。同三年ヨリ。貞享三年マテ。國領半兵衛。同四年ヨリ。元禄元年マテ。西山六郎兵衛。同二年ヨリ。同十三年マテ。細井九右衛門。

同十四年ヨリ。宝永二年マテ。今井九右衛門。同三年ヨリ。正徳五年マテ。兩宮勲兵衛。夫ヨリ替ルル支配シ。文化十年ヨリ。小野田三郎右衛門支配ス。

高札場 小名中宿ニアリ。

小名

淀橋 村ノ東ノ方往還此橋ノアルホトリヲ云。

西町 西ノ方高圓寺村堺ヲ云。

橋場 前ノツキニアリ。

鍋屋横丁 南側ニテ妙法寺工ノ道ナリ。

上宿 右ノ東ノ方ニ続ケリ。

中宿 中程ヲ云。

打越 西北ノ方ヲ云。

原 東北ノ方ニアリ。

下宿 淀橋ノ西ヲ云。

原野

桃園 此地モト百姓郷右衛門力持ナリ。

常憲院殿ノ御代。元禄八年。上ケ地トナリ。犬小屋ヲ設ケラレシカ。寶永六年ニイタリ。此小屋。築セラレテ地所ハモトノコトク。郷右衛門へ歸シタマフ。ソノ後享保年中。

有徳院殿シハ、此邊 御遊獵アリシユヘ。同キ二十年。土岐美濃守 命ヲ蒙リ。地所ヲエラミテ御立場トナシ。ソノホトリナル畑ノ畔へ紅桃並十株植付サセテ。同年又白桃ヲウヘソヘ。元文元年。郷右衛門所持ノ畑一畝北歩ノ場所ヲ召上ラレ。御立場ヲ築立。アマタノ松ヲ植。ソノ麓ヨ

リ道ヲヒラキシカハ。此道ノ年貢ヲモユルサシ
又。御成ノ度コトニ郷右衛門ニ銀一枚ヲタマ
ハル。同三年。又此ホトリ六万七千十四坪ノ所へ
緋桃百五十株ヲウエシユへ。春コトニ桃花咲乱
レテ。紅白枝ヲ交へ艶景目ヲ奪フハカリナリ。ヨ
リテ寛保三年。御立場ノ後へ山丘ヲキツキ立。
釣命ヲモテ諸大名コノ所ニ逍遙シ。看花ヲナス
ヘキ地ヲ開カセラルニヨリテ。今ニソノ所ヲ字
シテ大名山ト云。ソノカミ暮春ノ比桃花盛リナ
ル時ハ。貴賤遊行ノ者少ナカラス。大ニ賑フニ

ナリユキタレハ。村民等ノ為ニハ却テ農業ノ妨
トナレリ。ユヘヲモテアル。御遊ノ時。御小姓松
下專助。命ヲ傳テ十一軒ノ茶屋ヲ立ルヲユ
ルサル。コレヨリシテ土人コ、ニ出テ茶菓ヲヒ
サキ遊客ヲイコハシメ少シク生産ヲ助ク。安永
ノ初ノ頃マテハ。桃花モイマタ盛リナリシユへ
土地賑ヤカナリシカ。同キ六年。鶉ノ御場トナサ
レシユへ。此辺四十九丁七段ホトノ所雜木ヲキ
リ除セラル。然ルニ當所ハ元ヨリ野土ニテ膏腴
ナラザルユへ。培養ノ力ヲカラサレハ樹木生茂



大名山

御立場

六



セス。ソノカミ植シ木トモク次第ニ減シテ。今ハ
タヘクニナレリトソ。又コノ御立場ノホトリ
ノ小流ニ石神井橋トイフアリ。長二間。幅二間。先
年御成ノ時シバク渡御アリシユヘ。公ヨ
リ修理ヲ命セラル。故ニワツカナル橋ナレト
コ、ニノス。

橋梁

淀橋 東ノ方村界ニテ神田上水ニ架ス。幅三間。長
十間許。

水利

神田上水 水元ハ吉祥寺井ノ頭池ヨリ出。又遷野
井村善福寺池ヨリ出。雑色和田兩村ノ境ニテ才
十合。本郷村ヲヘテ村ノ東塚ヲ流レ。上落合村ニ
注ク。此水末ハ江戸關口ヘ達ス。毎年三月ヨリ八
月マテ願ヲ立。本郷村地内ニテ堰ヲ設。所々ノ水
田ニ引用ユ。

神社

氷川社

除地一町
二段八歩

村ノ中央ヨリハ東南ノ方ニ

ヨリテアリ。本社ハ一門ニ八尺。本地十一面観音ノ立像。長一尺七寸五分。ルヲ安ス。前立ニ素蓋鳴尊。稲田姫。大己貴命ノ木像。三体ヲ安ス。各長一尺七寸二分。拜殿三間半ニ三間。鳥居二基アリ。一基ハ木ニテ。一基ハ石ナリ。左右ニ松檜並ヒタテリ。鎮座ノ年代詳ナラス。正五九月廿七日。神酒ヲ供ス。村内寶仙寺持。

天神社

除地一段
六畝廿歩

村ノ北界ニアリ。社ハ四尺五

寸ニ六尺。鳥居アリ。村民持。

寺院

寶仙寺

境内一万五
千五十二坪

往還ノ内小名中宿下宿ノ

境ニアリ。明王山聖不動院ト号ス。新義真言宗無本寺ニテ。天正十九年。御朱印十五石ヲ賜ヒ。慶安元年。八月十七日。八石六斗餘ヲ増シテ。都合二十三石六斗餘ノ寺領トナレリ。傳ヘ云昔

堀河院ノ御宇。寛治年中。鎮守府將軍源義家。奥州ノ夷賊ヲ征伐シ御利運アリシカハ。凱陣ノ後當寺ヲ建立シ玉フト云。サレト往古ノナレハ。真

詳ナルヲヲミラス。當寺ムカシハ和田村八幡
別當ナリシガ。社地ヘノ路程ヘダ、リテ不便ナ
レハ。末寺ニソノ職ヲユレリト云。サレハ八幡
鎮座ノ時。當寺ヲ起立シテ別當ニ附ラレシニヤ。
中興開山ヲ聖永トイフ。永享三年。二月廿四日示
寂。末刹三拾ニケ寺。門徒二拾六ケ寺ヲ統フ。

武州多麻郡中野明王山聖無動院寶仙寺緣
起

當寺者。陸奥守源朝臣義家郷創建。本尊明王乃公

之護持尊。而良辨僧正親刻靈像也。謹釋其緣由。
後冷泉帝永承六年。東奥負仕叛。源公賴義以鎮守
府將軍奉詔伐之。軍屯于武野阿左谷。有雲岐而
爲八。發黠于營上。象如白幡。將軍喜曰。是八幡之所
護。吾師必利。乃跪地叉手誓曰。余賴神助得誅賊徒。
當就茲地營構神祠而福邦家。師既東矣。奥之地食
足兵強。將軍運策經九年之久。負仕授首。第宗任降。
於是奥盡平矣。實康平五年也。詔載在史典。公明年
春。歸于京師。道出阿左谷。乃治前瑞之地。建祠奉祀
廟宇宏麗。土人稱曰大宮八幡。雨後方

白河帝之時。賴義嫡子義家。又任鎮守府將軍。將之
任。自謂東夷豺狼。振古稱難治。昔先君之能用武也。
尚且奕幸所而見其効。况於予不肖乎。苟非賴神佛
之冥助。安得配前烈哉。迺登醍醐山。屈請一大德。記曰
名附平生護持之不勤明王。逆旅軍中恒修密軌。像
則良辨僧正手刻者也。軍復至武之阿左谷。乃從先
蹤謁于神廟。而后赴東奧。奧民服其德政。雖任已滿。
請以過之。寬治三年。不圖清原家衡據仙北金澤柵。
不從。朝命。朝廷又命義家討之。僅三年而獻捷。
雖策略所長。亦二靈神之冥助也哉。凱歸之次。過常

之鹿鳴祭之。此神有鎮束且手採封內苗松數根來。

栽我八幡宮境內。再修宮殿。華表牆垣。金碧交輝。亦
為皇祚天長武運地久。請寄神田若干頃。從容詔
醍醐大德曰。舉凱若神速。皆神之力也。然師注丹衷。
凝懇念。從我軍伍之間。其勞亦大哉。何以能酬答。吾
將建一寺。安明王尊。傍造坊舍。置衆僧。以奉事神佛。
令師管之。於意云何。師云。善哉。是舉也。貧道所欲請
也。謹按不勤梵云。阿左此地號阿左谷。豈非明王應
化勝區哉。公請促之。如其惣管。則有他俊賢。在吾不
敢當。公是其言。招集工匠。運轉土石。結構不日而成。

爾時偉服之神。忽然現前。自稱吾此地主稻荷神。手
與將軍一顆珠。告曰。此珠希世之珍。寶中之仙也。以
是爲鎮。則武運延長。法燈永明。言訖化白狐去。公及
諸將按之。親見者無不歎異也。其珠傳而到今。山稱
明王。寺名寶仙。蓋本于此云。
建治弘安間。有願行上人者。勅謚宗關律師關左遊化之次。
掛錫當寺。一謁靈像。大驚曰。此像靈貌不常。若有廁
役。牧豎謬而繫瀆之。必蒙冥譴。非其所宜。則命寺主
嚴加鎖鑰。爾未每至三十三年。令褰帳諸人瞻禮云。別刻一像立龕前。以
充平素瞻禮像。亦有靈應。傳云。

弘安帝曾召上人。受戒而不起。御座。師奏。吾聞人
能弘教。尊其教而不敬其人。可乎。

帝不悅。師乃退而默坐。即現不動明王形。威容赫然。
不可仰觀。

帝大畏懺悔謝罪。下座受戒也。行公威靈。大率此類。
他載在行狀。故稱師不動之分身。宜哉。手刻之像感
應揭焉。相州大山寺明王像。亦上人自造摸範云。

應永中。山主曰。聖永。稟法妙樂寺。此落合村寺。猶存。行海。海
者。願行高弟。鎌倉大樂寺開基公珍四世之法孫也。
應永丁未歲。十一月十八日。鬼病。木曜。從海受灌頂一瓊

秘訣無餘蘊。永一日。相攸於下阿左谷。今野号而謀遷
寺基。以告官。官許之。遂永亨元年。移寺於今地。別
建大宮寺。奉八幡神祠。仍大宮寺于今隸于吾寺。何上
左谷田圃間。往往猶有。又造八幡稻荷二祠。以為山
殿堂之名。可以證古也。鎮。長挑願行之法燈。遐邇歸德。宗風大振。爾來至祐
二十六世。脉譜昭然。法燈續明者。實永師之力。寺以
聖永為中興者。是由也。

此一軸ハ。尾刈光友郷ノ二男。從四位下左近衛
少將。攝津守ノ撰并書セシモノニテ。卷末ノ裏
ニ源義行朝臣ト書シテ花押ヲ居ク。

本堂 寶形作リニテ十間ニ九間。南向。御座所

二間ニ二間半。御成ノ時御膳所ナリ。本尊ハ
不動ノ坐像ニテ。長一尺七寸五分。良辨ノ作。外
ニ四大明王ノ四軀ヲ安ス。木ノ立像ニテ。長二
尺三寸五分。願行ノ作ト云。古位牌一基アリ。牌
面ニ。將軍賴義公信海。將軍義家信了ト彫テ
アリ。

御成門 本堂ヨリ西南ノ方ニアリ。柱間六尺五
寸。高廿七尺。東向。

仁王門 往還ノ傍ニタテリ。南向。仁王ノ木像。長

六尺。

中門 仁王門ヲ入手二十一間餘ニタリ。

鐘樓 本堂ノ東南ノ方ニアリ。九尺四方。鐘ノワ

タリ二尺七寸。高五尺。牧野備後守ノ寄附ナリ。

其銘左ノ如シ。

夫鐘響者。如來聲教法器最上也。故佛閣有。則不

可無九鐘矣。于茲武所多麻郡中野郷。明王山無

動院寶仙寺者。真言瑜伽道場。東関無双旧地也。

故雖尊客溢堂。禪客滿坐。捷非關矣。未成矣。佛場

樞要。當院雖累代嘆之。予亦悲請之。無陶鑄鑿銅

之力。幸有武井氏重三郎尉慈母。祈牧野氏源朝

臣成負公家室。深誓於當家安全。益願於家

門繁榮。則新鑄冶二尺七寸鴻鐘。庶幾因此功。檀

女至願頓滿焉。

銘曰

偉矣神鐘響 一撞動大千 朝驚三界夢

夕等四生偏 範圍為形也 內空闊外圓

人心從物表 懇禱此因緣 檀女捨賤淨

子孫長得全

貞享四丁卯年十二月廿八日

明王山第二十三世法印 俊興記

助縁列衆 正藏院住法印俊義

洞家碩師官峯

武井氏若母清光院尼公

治工田中丹波守

藤原重行作

彌陀堂 本堂ノ西ノ方ニアリ四門二三間東向

彌陀ノ像ハ座像ニテ長一尺五寸

什物

四尊合躰像

一軀

弘法大師ノ作ト云昔

堀河院ノ御宇。永長元年。二月廿六日。源義家鎌

倉鶴ヶ岡へ参籠ノ時。靈驗アリシ。愛染不動辨

天毘沙門ノ四神合躰ノ像。木ノ坐躰ニテ。長三

寸八分ナリト云。則自ラソノ縁起ヲ記シ玉フ

ト。サレト其書躰後入ノ偽作セシコトハ論ナ

シト云ヘ凡。其俣ヲコ、ニ出セリ。

空海尊師。承和元年。六月廿六日夜。愛染法修行

給。其夜靈夢日輪拜見。在於光中。愛染明王不動

辨。天毘沙門天。顯四面一尊形。其拜顔如見空

海直作之。然而備檀上。愛深法修給。四面放光如日輪耀。云云。自然空海常以愛深修法之爲本尊。寔利益新。靈驗不思議尊容也。果是相承畢。

承和元年九月一日

真雅敬白

這四面具相之愛深明王者。從空海大法師真雅相承之尊像也。其後予相傳之。而令安置。右如傳記。以愛深明王爲祈願本尊。一切事滿足。天子之蒙祈願勅。於此尊前爲祈念。御願無不成就。衆人愛敬守護給。功德悉密法內有之。故畧。

延喜五年三月廿六日

醍醐寺聖寶敬白

柳四面合體之愛深明王者。從弘法大師真雅聖寶等迨相傳明王也。于時永長元年。二月廿六日夜。鎌倉鶴岡八幡夢中來現告云。社內四面一尊有愛深明王影現。順禮之而可爲安置。蒙告□則仕夢想。八幡宮江社參。如告四面一尊之愛深。右傳來記相添有之。不思議爲思。向神前拜。自社內聲有云。以明王汝守護之本尊也。四面一尊成事。於武家四方蔽防爲守護。此形相顯也。可信神訖有。則歡喜頂戴而我家婦。內檀安置有家中照猶日光。寔信心徹肝。有時歎起陣所趣。此尊戰場先

立。四面放光。矢敵中射給。群類大風如木葉散。敵
四方退散得正理。偏此愛深明王威神力也。可謂
世希有靈尊是也。

永長元年二月二十六日 義家敬白

龍頭骨

長サ九寸ハカリ。幅三寸餘。眼ノ迹トオボシキ
穴ニツアリ。モシヤ腮ノ形ニテモアルカ定カ
ナラス。傳ヘ云寛永年中。吉祥寺村井ノ頭ノ池
邊ニテ。童子草ヲ刈テ居タリシ所へ。小蛇来リ
テ童子ノ足ヲカマニトセシユヘ。童子鎌ヲモテ

ソノ首ヲ切オトセリ。時ニ山野震動シテ傲ニ
雨ヲ下シ。ソノ蛇スサマシキ形トナリテ。草中
ヲハヒヲクレリ。童子恐レテニケカヘリケル
ニ。忽チ池水涸テ一酌ノ水モナカリケレハ。村
民ノ嘆キ斜ナラス。コレニヨリテ當寺ノ住僧
秀雄池上ニ至リ。真言秘密ノ法ヲ行ヒシニ。元
ノ如ク池水涌出セシトソ。名主伊右衛門カ先
祖某ナルモノ此龍頭ヲトリテ。伊奈半十郎へ
訴ヘカタルノヨシ申セシカバ。秀雄カ法カ
ヲ感セラレ。永ク付物トシテ。後代ニ示スヘキ

表ヲ平ニ見タル圖

蓮八本皆
折テ白ク
丸シ中ニ
黒キ點ノ
如キ色ア
リ



此穴貫ケリ

横ヨリ見ル圖



此所左右白シ

裏ヲ返シテ見ル圖



ヨシニテ下シ賜フト云。此事妄誕ニ似タレ也。
土人ノ傳ヘニ任セテ記シヲキヌ。

寶珠

一顆

鎮守府將軍源義家當寺造立ノトキ。納メラレ
シトゾ。將軍兼テ信シ玉ヘル稻荷ノ靈驗ニヨ
リテ。感得セシモノナリトウケカタキ事ナリ。

火車爪

當寺ノ先住榮賢トイフ者。アル七者ノ障碍ヲ
ナセシ火車ヲ鎮メシトテ。念珠ヲモテ打碎ケ
ルトキ。残セシ爪ナリト云。コレモ甚虚誕ニ似

タレトモ。古ヘヨリ傳ヘシナレハ。聊ソノア
ラマシヲ記ス。

象骨

頭 鼻 牙 二

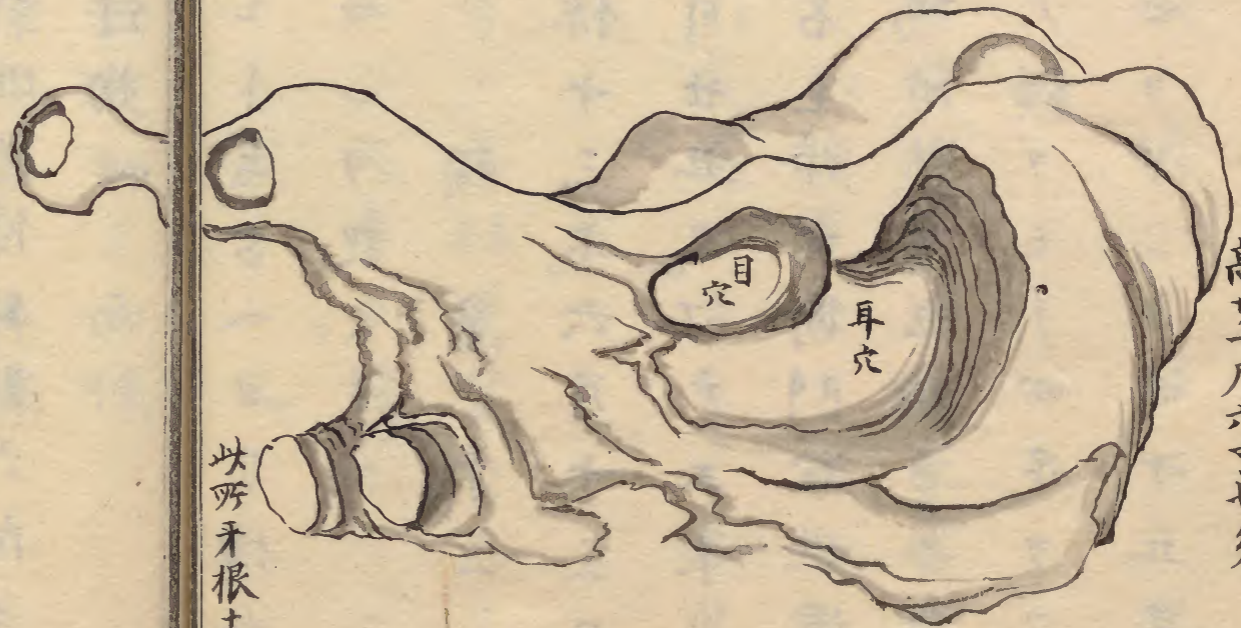
享保十三年。六月十三日。長崎へ渡リ。同十四年。
五月廿五日。江戸エ来リ。上覽ノ後。當村へ下
シ。名主卯右衛門。百姓源助兩人へ預ラレシカ
ハ。場所ヲ見立堀ヲホリマハシ。ソノ内ヲ圍ヒ
鉄ノ鎖ヲモテ四足ヲツナキ。象ツカヒヲ付テ
養ヒヲキシカ。同十五年。十二月十二日斃ス。皮
ヲハ公へ召上ラレ。ソノ頭ト牙ト鼻トヲ卯

象頭骨

横ニ見ル圖

高サ一尺六寸七分

頂上空穴
アリ
目鼻耳ノ
跡空穴十
頭骨ノ限
ヨリ鼻穴
ノ邊ニテ
長サ四尺
餘



此所牙根ナリ

牙ノ圖

空内一尺五寸餘ニテ
空虚ナリ

丸穴徑一尺一寸
五分

鼻皮圖



厚サ五分

幅九寸

長サ一尺五寸

長サ四尺六寸五分
厚サ一尺五分

長サ一尺五寸五分
厚サ五分

右衛門源助へ賜ハレリ。後村民等ト相ハカリテ。遂ニ當寺ニ納シト云。

観音堂 境内西南ノ方ニアリ。六間ニ三間ノ堂ナリ。東向。本尊如意輪観音。木ノ坐像ニテ長一尺一寸。

塔頭

玉泉寺 境内東南ノ方ニアリ。三間四方。南向。本尊弘法大師。木ノ坐像ニテ長二尺五寸。願行ト云ヘルノ作。拜殿六間ニ三間。光明殿ト扁ス。付物

弘法大師ノ画像

二軸

愛染明王ノ画像

一軸

右三軸トモ弘法大師ノ筆スル所ナリト云。

地藏堂 本堂ニ向ヒ東南ノ方ニアリ。一間四方。

西向。地藏ハ石ノ立像ニテ長三尺五寸。

権現祠 前ノツ、キニアリ。三部権現ト号ス。ソ

ノ故ヲ詳ニセス。小祠ナリ。

熊野祠 前ノツ、キニアリ。小祠。

三重塔 當寺ヨリ二丁ホト東ノ方 御朱印地

ノ内ニアリ。三間半四面。高サ五丈三尺。五智如

来ノ木佛ヲ安ス。中尊長二尺。四像共二一尺五寸。先住秀雄ノ代建立セシト云。此塔内ニ男女若形ノ像二軀アリ。造立ノ施主村民飯塚氏惣兵衛夫婦力遺像ニシテ。男軀ノ脊後ニ施入塔塲寛永十一年十月。女軀ノ方ニハ。施心妙塔寛永十三年七月七日。願主塔院開山法印賢海。開眼師法印秀雄ト記セリ。

慈眼寺

除地六十九坪

往還ノ内小名上宿ニアリ。

福王山彌勒院ト号ス。新義真言宗ニテ。村内寶仙寺末。本堂ハ近キ頃雷火ニテ焼失セシユヘ。今ハ

假堂ナリ。本尊正觀音。木ノ坐像ニテ長一尺四寸。

開山詳ナラス。開基ハ天文十三年トイハ古キ

寺ナレトモ。具詳ナルトヲ傳ヘス。

西光寺

除地四畝六十四步

西ノ方往還ノ内高圓寺村界

ニアリ。紫雲山ト号ス。本寺前ニヲナシ。本堂ハ四

間二三間。南向。本尊ハ不動ノ坐像ニテ長一尺餘。

開山開基詳ナラス。

天満祠 本堂ノ西南ノ方ニアリ。九尺四方。神体

ハ銅ノ立像ニテ長一寸八分。鳥居アリ。

安心庵

除地五畝十九步

村ノ中央ヨリ少シク西南ニ

ヨリテアリ。五間ニ二間。名主卯右衛門カ先祖ノ
墓地ナリシカ。其後庵地ニ附セラレテ除地トナ
レリトゾ。

屋敷

中山主馬抱屋鋪 北東ノ方ニアリ。寛永十二年十
二月ヨリ抱ヘラケル所ナリ。坪數一万二千三百
五十坪。

野一色外記抱屋鋪 東南ノ方本鄉村入會ノ所ニ
アリ。正徳六年五月ヨリ抱ヘシ所ナリ。坪數千七

百七拾八坪。本鄉村ノ條ニモ出セリ。

舊家

名主卯右衛門 堀江氏ナリ。先祖ハ小田原北條家
ニ仕ヘテ。小代官ノ役ヲ勤タルヨシ。北條没落ノ
後。此地ニ来リ住セシト云。サレド旧記等モ失ヒ
タレハ。ソノ来歴ヲシラス。北條家ヨリ文書二通。
及ヒ豊臣家ヨリノ禁制書一通。都合三通ヲ所持
スレハ。旧家ナルハ疑ヒナシ。

の如件

進言塘之海路之旨の如き意を以て申すに

二海路也



海

何佐ヶ塔 小代度
百廿年

正本務別表南以毎年抄之
免敷之内ハ俵お切細写日
廿百之派也小田原へ在る面
西海之海之古河社に下
昌日路之にお遠きと為曲
本も也何如件

一軍勢軍已入會。選始後藩事。
 一放火車。
 一對地下人。可獲能合。所申熱事。
 右系之。堅今信山。記。有。如。透。犯。

禁制

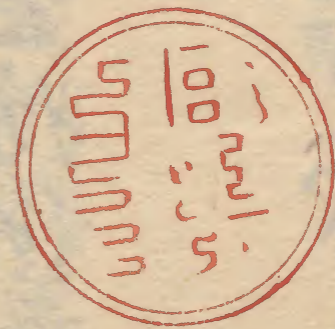
中野之入村
 東國之東部



中野之信者
 小代友
 西野中

孝老。忽可泣。教母也。

天正十八年卯月日



褒善

百姓千松 百姓佐五右衛門力第十リ。性篤實ニシテ父母ニヨク奉養ヲツクシ。兄ヲウヤマヒテ承

順スルコト。近隣其孝悌ヲ賞シテハリ。然ルニ先年母ニワカレテ後。イク程ナク又父ヲ喪ヒシカハ。カノ菩提ノタメ出家ノヲ望シカト。兄コレヲ許サ、リケレハ。其意ニ從ヒ又佐五右衛門ニヨク仕ヘタリ。カレ元ヨリ貧窮ナレハ止コトヲエス。幼年ノ子二人ヲ残シオキ。妻ヲハアル武家ヘ奉公ナサシム。兄ハ農務ニイトマナケレハ。千松父母ニ代リテ朝夕ノ撫育。衣服ノコトマテモ懇ニ扶助シ。聊イトフ色ヲ出サス。殊ニ兄ヲ助ケテ耕作ニモ力ヲ尽シケレハ。寛政十二年正月十

八日。御代官伊奈友之助。役所へヨヒ出シ。平生ノ
所業ヲ糺シミルニ疑フヘクモアラサレハ。奇特
ナリトテ金五百匹ヲアタエシト云。今ニナヲ佐
五右衛門カ家ニ居レリ。

本郷村

本郷村ハ郡ノ東豊島郡ノ界ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失
フ。當村ノ開闢詳ナラサレト。村内ニ成願寺アルヲ
モテミレハ。古キ村ナルヲハ疑ヒナシ。或ハ又中野
村ヨリ分郷セシトイヘト。コレモ詳ナルヲ傳ヘ
ス。サレト其村ノ名主卯右衛門カ所持ノ文書ニ。中
野郷五ヶ村ナト戸レハ。其村々ノ名ハ尖ヒタレド。
サモアルヘキニヤ。村ノ廣サハ東西十八丁。南北七
丁アマリ。江戸日本橋ヨリ行程二里半。西ハ當村ノ

新田及ニ雑色。和田ノ二村ニ接シ。北ハ中野村ニツ
ツキ。南ハ豊島郡幡ヶ谷村。東モ同郡同村并ニ角筈
村ニ及ヘリ。地形ハ平ニシテ。水田ハ中央ニアリ。畑
地ハソノメクリニツラナレリ。土性ハスヘテ野土。
檢地ハ。天正年中タ、セシヨシ傳フレハ。江古田村
ナト、同ク。伊藤小右衛門。沼上伊豫。封四郎右衛門。
池上作藏等ウケタマハリテ檢セシナルヘシ。御
入國ヨリコノカタ私領ノヨシ。今モ尚鉄炮玉藥同
心ノ給地ナリ。

高札場

小名向臺ト云所ニアリ。

小名

根河原

村ノ中程ニアリ。

道元

前ノツ、キヲ云。

薬師堂村

西ノ方雑色村ノ境ヲ云。

向臺

南ノ方ニアリ。

山川

川

吉祥寺村井ノ頭池。及ニ逢野井村善福寺池ノ

二流。和。田。雜。色。二。村。ノ。界。ニ。テ。落。合。村。ノ。西。ノ。方。ヨ
リ。村。内。へ。入。東。ノ。方。豊。島。郡。幡。ヶ。谷。角。菩。兩。村。ノ。界
ニ。イ。タ。ル。此。水。三。堰。ヲ。設。テ。引。分。所。々。ノ。水。田。ニ。ソ
ソ。少。村。内。ニ。カ。ル。丁。九。十。丁。角。菩。村。界。ニ。テ。上。水
ニ。合。ス。

神社

氷川社 除地八百
二十坪 村ノ北ノ方ニアリ。村ノ鎮守
ナリ。二尺四面ノ石ヲ神躰トス。拜殿二間ニ三間
鳥居ヲタツ。例祭九月十五日。福壽院持。

寺院

成願寺 除地五百
六十坪 村ノ東ノ方ニアリ。多寶山ト
号ス。禪宗曹洞派ニテ。相。弱。大。住。郡。田。原。村。香。雲。寺
ノ。末。御。朱。印。五。石。ヲ。附。セ。ラ。ル。開。基。ハ。正。蓮。居。士。
俗。稱。鈴。木。九。郎。ト。云。世。ニ。中。野。長。者。ト。稱。ス。ル。ハ。此
人。ノ。事。ナリ。傳。へ。云。長。者。黃。金。朱。漆。ナ。ト。ヲ。此。所。ニ
埋。シ。テ。ア。リ。ト。ソ。ノ。事。ノ。實。否。ハ。シ。ラ。サ。レ。ト。近。年
境。内。ニ。於。テ。一。ノ。壺。ヲ。ホ。リ。出。セ。リ。ソ。ノ。中。ヲ。見。ル
ニ。皆。漆。ニ。テ。ア。リ。ケ。ル。ヨ。シ。是。ハ。カ。ノ。長。者。カ。埋。シ

モノカ。此餘古キ畧物ヲホリ出セシ事マ、アリ
シト。或ハ云。當郡金子村。總列小金原十ト。皆カレ
カ黄金ヲ埋シ所ナレハ。コノ名アリト。是全ク附
會ナルヘシ。寺傳ヲ見ルニ。九郎カ先祖ハ紀州熊
野ノ神官ナリト云。應永ノ以。九郎當所ニ來住シ
馬ヲヒサクフヲ事トス。或時馬代トシテ得ル所
ノ錢。皆大觀ノ文字アル。古錢ニテアリケレハ。九
郎奇異ノ思ヲナシ。已カ常ニ信スル所ノ淺草觀
音ヘ納メケルニ。夫ヨリシテ家富。遂ニ巨萬ヲカ
サヌ。是大悲ノ靈恩ナルヘシトテ。先祖ノ出ル所

ナレハ。紀州熊野ヲ寫シテ一社ヲ創建セリ。則角
筈村十二所権現是ナリト。按ニ角筈村ト。當村ト
ハ接地ニテ。古ハハ范々タル原野ナレハ。ソノ境
サタカナラス。此邊スヘテ中野トイヒシナルヘ
シ。前ニモイフコトク。中野村卯右衛門カ所藏ノ
文書ニ。中野郷五ヶ村トアリ。又権現ノ縁起ヲ見
ルニ。ウケカヒカタキノミナレト。古クヨリ傳
ヘシトナレハ暫クコ、ニノス。其縁起ニ抑長者
富ル所ノ金銀。日ニマシ。月ニソヘテ。イヨク累積
シケレハ。人ノ望ヲカケニテ恐ル。何クヘカオサ

ノ隠ニト思ヒ。僕ヲシテヒソカニ。カノ金ヲ負シ
メ。アル原野ノ人ナキ所へ。持運ヒテ埋シムル
數度ナリ。カクテハ此僕人ニ語りナン。ヲ恐レ。
ソノ歸ルサニ橋下ニ於テ殺シケリ。ヨリテ其橋
ヲ名テ姿不見橋トモイヒ。又オモカケ橋トモイ
ヘリ。ソノ意ハ奴僕物ヲ負テ橋ヲワタリケレト
モ。歸ルオモカケハ見エサルトイフ意ニテカク
名付シトソ。然ルニ正保年中。
大猷院殿 御遊獵ノトキ。當寺ノ境内ヲ 上覽
ス。トテ。此橋ヲ 渡御アリシトキ。土人ニ橋

名ヲ 御尋有ケルユヘ。カノ長者カク 台聽ニ
達シケレハ。イカニモイマハシキ名ナリトテ。
釣命アリテ。今ノコトク淀橋ト改サセ玉ヘリト
云。長者カ壮年ノ時。一人ノ女アリ。容姿才質。人ニ
スクレシユヘ。殊ニ鐘愛セシカ長者人ヲ殺セシ
報應ニヤアル。晝俄ニ全身鱗ヲ生シ蛇形トナリ
テ庭上ニハヒメクレリ。時ニ雲オコリ雨フリ。雷
鳴震動シケルニソ。長者大ニ恐レ。此ホトリノ僧
侶ヲマ子キテ祈ラシメシニ。更ニソノ験ナカリ
ケリ。時ニ相模國足柄上郡關本村。最乘寺ノ春屋

禪師ハ。高德ノ聞エアリケレハ。コレヲ招キテ法
カヲ乞ケルニ。禪師ウケカヒテ池ノホトリニイ
タリ。丹誠ヲ抽テ祈念シケレハ。忽天晴雨止ケリ。
長者大ニソノ秘法ヲ感シ。己カ隱惡逃レカタキ
ヲ嘆シ。コレヨリ信者トナリ。則己カ宅地ヲステ
テ精舎トナシ。受戒シテ正蓮ト号シ。娘カ法名正
觀ノ文字ヲ以テ寺号トシ。諸堂及ヒ三層ノ塔ヲ
ソ建立セリト云。ソレヨリ遙ニ星霜ヲ歴テ。イツ
シカ鳥有セシ。今ソノ跡ヲ字シテ塔屋敷ト云。當
寺ノ本尊釋迦佛ハ。元此塔ニ安スル所ノ聖徳太

子ノ作ナリト云。此ヨリ長者イヨク行ヒスマ
シテ。永亨十二年。享年六十九歳終ヲコ、ニ取レ
リ。今按ニ小田原家人所領役帳ニ。中野内正歡寺
トアルハ。恐クハ此寺ノ事ナルヘシ。長者カ娘ハ。
正觀ナレト。觀ト歡ト同音ニシテ。字形モ似タレ
ハ。役帳ノ誤寫ナルニヤ。ソノ後又成願ト改メシ
モ。正觀ト成願ト音モ近ク。其上祈願成就ノ義ニ
トリテ。イツノ頃ヨリカ。カク文字ヲカキカヘシ
モノナルヘシ。其後文明八年ニ至リテ。川庵董席
ニテ傳燈ヲカ、ク。開山ヨリ第四世ニアタレリ。

天文五年六月六日示寂ス。

表門 二間ニ九尺。

本堂 十間ニ七間。南向。本尊釋迦。木ノ坐像ニテ

長一尺五寸。聖德太子ノ作。脇士文殊普賢。

位牌堂 門ヲ入テ左ノ方ニアリ。四間半ニ三間。

衆寮 位牌堂ニツクリカケテアリ。

鐘樓 門ヲ入テ右ノ方ニアリ。二間四方鐘ノ徑

二尺七寸。高サ五尺三寸。延享四丁卯年九月鑄

シモノナリ。

觀音堂 本堂ノ右ノ方ニアリ。三間ニ二間。北向。

觀音ハ銅ニテ長二尺八寸。

間魔堂 左ノ方ニアリ。二間ニ二間半。木ノ坐像

二尺五寸ナルヲ安ス。

金毘羅社 東北ノ方ニアリ。二間四方。木ノ立像

ニテ長二寸。

福壽院 除地百坪 村ノ北寄ニアリ。南光山ト号ス。

新義真言宗ニテ。中野村寶仙寺末。客殿七間ニ五

間。南向。本尊藥師ノ坐像。長一尺五寸。此本尊ハ靈

佛ニテ寄附ノ田畑アリ。何人ノ寄附セシニヤ其

姓名ヲ失ヘリ。堂ノ背後ニ堂山トイフ所アリ。此

薬師ニ附セシ山ナリト云。ソノ傍ニ薬師堂村ト
テ民家十二三軒アリ。コノ田畑モ此薬師ニヨ
セシモノナリト云。開山詳ナラス。法流開祖ハ寛
宥ト云。享保十一年六月朔日示寂。

屋敷

野一色外記屋敷 中野村ト當村入會ノ所ニアリ
三千六百九拾五坪ニテ。中野村ノ地ヲ合スレハ。
凡五千四百七十三坪。カノ村ト同ク正保六年五
月ヨリ抱シ所ナリ。

本郷新田

本郷新田ハ本村ノ南ノ方ニアリ。イツノ頃一村ノ
名トナリシヤ。ソノ年月詳ナラス。江戸日本橋ヨリ
二里半ノ行程ナリ。南西ハ雑色村ニトナリ。西ヨリ
北ハ本村ニテ。東南ハ豊島郡幡ヶ谷村ニ接ス。家數
九軒。村ノ廣サ東西二丁ハカリ。南北一丁餘。飛地三
ヶ所アリ。一ヶ所ハ西北ノ方ニアリ。一ヶ所ハ東ノ
方。又一ヶ所ハ東南ノ方ニアリ。元禄三年。細井九左
衛門檢地ス。今ハ御代官小野田三郎右衛門カ支配

所ナリ。

堀之内村

堀之内村ハ郡ノ東ノ方ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失フ。江
戸日本橋ヨリ行程三里ハカリ。村内高低アリテ。田
畑ハ西ヨリ東ノ方ニヨリテアリ。土性ハ黒土。民家
五十五軒。處ニニ散住ス。東ハ和田村ニツ、キ。南ハ
和泉村ニ接シ。北ハ高圓寺村ニ及ヒ。西モ亦和田村
ナリ。村内一条ノ道アリ。中野村鎬屋横町ヨリ。和田
村ハ幡社ノ前へ達ス。村内ニカ、ル丁十一丁バカ
リ。此道ニ大松一株道ノ北側ニアリ。田ニヒロバカ

リ。土人ノ傳ヘニ。往古鎌倉ヨリ奥州エノ街道ニテ。
兼保二年五月。鎮守府將軍源義家。奥列夷賊ヲ征討
シ玉フトキ。暫ク代々木村ニ留リ玉ヒシカハ。此松
ニ馬ヲツナキ鞍ヲカケサセラレタリト。故ヲ以テ
鞍掛松ト名付クトイヘリ。尤ウケカヒカキ説ナ
リ。コトニ義家ノ奥列征伐ハ寛治五年ノノナリ。時
代モタカヒヌレハ。妄誕ノ説ナルヲシルベシ。此邊
阿佐ヶ谷。天沼。下荻窪。及ヒ當村スヘテ江戸麴町山
王社領ナリ。何レノ比。附セラレシヤ詳ナラス。檢地
ハ。寛永十二年。會田七左衛門。江坂源兵衛。阿出川惣
兵衛。田山権太夫等奉リテタマヒセリ。

小名

原 東ノ方和田村ノ界ヲ云。
小屋ノ臺 西ノ方和田村ノ境ニアリ。傳
ヘ云。昔文治五年七月十九日。鎌倉右大
將家。陣立アリシ時。先陣畠山次郎重忠。
此所ニ宿陣セリト。ユヘニ此唱アリト
云。昔ハ和田村ニ属セシカ。今當村ノ内
ニ入レリ。

清水 北ノ方高圓寺村境ヲ云。

中道 中程ニアリ。

本村 南ノ方ニアリ。

山川

川 水元ハ蓬野井村善福寺池ヨリ出。隣村和田村

ノ内。松ノ木ト云所ヨリ當村へ入。村内ヲ流ル、

一十丁ハカリ。流末ハ又和田村ニ至ル。此川ニ堰

三ヶ所アリ。一ヶ所ハ村ノ南ノ方ヲ流ル。長サニ

十丁ハカリ。流末ハ是モ和田村ニ至。又一ヶ所ハ

中道ニアリ。又一ヶ所ハ小名本村ニアリ。コノニ

流ハ村内ニテ本流ニ落合。此三流ヲ處々ノ水田

ニソ、ク。

神社

熊野社

除地四百五十坪外ニ 小名本村ニアリ。

社ハ四尺ニ三尺。南向。拜殿二間ニ三間。神躰ハ木

ノ坐像ニテ天照太神八幡春日ノ三躰ヲ安ス。各

長三寸。前ニ石ノ鳥居ヲ立。松杉數株生茂レリ。村

民ノ持。

第六天社

除地八十坪

是モ本村ノ内ニアリ。二社並

テアリ。共ニ小祠ナリ。拜殿九尺ニ六尺。木ノ鳥居アリ。コ、モ松杉ノ森生ヒシケレリ。村民持。

寺院

妙法寺

除地四百五十坪餘。抱添地四千二百三十八坪。境内都而四千六百八十八坪餘。

日蓮宗。

甲斐國身延山久遠寺末。閑山妙仙院日圓。元和七年十一月十日示寂ス。此僧ノ名ヲ取テ日圓山ト号ヒリ。當寺往古ハ真言宗ナリシカ。元和ノ初。今ノ宗旨ニ改メリト。明和六年丙丁ノ災ニ罹リテ。

舊記ヲ失ヒ詳ナルヲ傳ヘスト云。本尊三寶諸尊四天王ヲ安ス。ソノ中ニ持國毘沙門ノ二天ハ運慶ノ作ナリト云。木ノ立像長七寸。又祖師日蓮ノ本像アリ。本堂ハ表門ノ正面ニアツテ十四間ニ十三間。南ニ向ヘリ。ソノ餘庫裡及ヒ座敷向等。薨ヲナラヘテ造レリ。

位牌堂 本堂ノ後ニアリ。三間ニ一間半。

祖師堂 十一間ニ十八間。瓦葺。向拜五間ニ三間。銅瓦葺。樓門ノ正面ニ建リ。上人ノ木體ハ。祖師四十二歳ノ肖像ヲ。高足ノ弟子日朗。靈木ヲモ

テ彫刺セシモノニテ。除厄祖師ト称ス。坐躰ニ
テ長二尺九寸。厨子ニ入レリ。モトハ荏原郡碑
文谷村法華寺ニ。有シモノナリシカ。元禄十一
年九月カノ寺ノ十八世日附ノ時。妙榮トイヘ
ル尼ノ事ニツキ。破戒ノ罪ニ處セラレテ遠流
セラレ。改宗アツテ。天台宗トナリシニヨリ。此
木像ヲハ當寺ニ譲リシト云。コノ比マテハ庵
室ノ如ク。イトカスカナルニテ有シカ。其後
靈驗世ニアラハレ。參詣引モキラズ。立願ノ者
カヲ極テ。土木ノ費ヲ供セシニヨリ。次第ニ結

構美ヲ盡シ。今ハイヨニ繁榮セリ。

寺寶

曼陀羅

二幅

日蓮ノ真蹟ナリト云。

身延山之記

一幅

同筆ナリトイヘリ。

法華經

序品
方便品

一卷

尊圓親王ノ筆ナリト云。

同分別功德品

一卷

光明皇后ノ御筆ナリト云。

法華經化城喻品

一卷

菅家ノ筆ナリト云。

同從地涌出品

一卷

小野道風ノ筆ナリト云。

大黒天

一軀

傳教大師ノ作ト云。白ニ乗レル木ノ坐像ニ

テ長七寸。

同

一軀

自然石ナリ。立躰ニテ長七寸。

摩利支天

一軀

定朝ノ作ナリト云。猪ニ乗レル坐像ニテ長一寸八分。

朝師堂

本堂ノ後ニアリ。三間四方。身延山久遠

寺十一世ノ僧。日朝ノ木坐像。長五寸ナルヲ安セリ。

額堂

二間ニ十八間。樓門ヲ入テ左ノ方ニアリ。

コ、ニ攝待ノ茶場ヲ張テ。參詣ノモノ憩息ノタスケトナセリ。

鐘樓

一丈四方。樓門ヲ入テ右ノ方ニアリ。鐘ノ

ワタリ二尺五寸。長五尺三寸。享保十年ニ鑄シ

モノナリ。

緋荷祠 書院ノ庭ニアリ。境内ノ鎮守ナリ。三尺
ニ一尺五寸ノ祠ニテ。神躰ハ長五寸ノ木像ナ
リ。

樓門 二間半ニ七間。南向ナリ。祖師堂ヲ距ル

二十間ハカリニアリ。坎餘同シ並ニ表門長

屋門裏門ナド号スル門アリ。

惣門 樓門ヲ距ル一十七間餘ニ夕テリ。

雑色村

雑色村ハ郡ノ東方豊鳴郡ノ界ニアリ。郷庄ノ唱ヲ
夫ヲ。開闢ノ年代ハ詳ナラサレト。村民武助カ家ニ。
天正十九年。辛卯。九月五日ト書セル水帳アリ。武列
多束郡大宮之内雑色村トアリ。是 御入國ノ前開
ケシヲシラル。今ハ武助カ家モ退轉シテ古ノヲ尋
ルニヨシナシ。寛永十一年ヨリ伊奈半十郎カ支配
スル所トナリ。正保ノ頃ハ。野村彦太夫御代官所。及
ニ佐ニ木與右衛門。新見市左衛門知行ナリシハ

モノニミエタリ。後イツノ頃カ新見某カ知行ハ収
公セラレ。御料ノ方ハ御代官モシハク遷替シ。今ハ
御代官小野田三郎右衛門支配所トナリ。コノ外ニ
佐ニ木兵右衛門カ知行交レリ。村ノ廣カ東西十一
丁。南北九丁。東ヨリ北ヘハ本郷村ヲメクラシ。西ハ
和田村ニトナリ。南ハ豊島郡幡ヶ谷村ニ及フ。村内
平地ニシテ少シク高キ所モアリ。土性ハスヘテ野
土ナリ。江戸日本橋ヨリ行程二里半餘。檢地ハ寛永
十六年。其後延宝二年。中川八郎右衛門。關口作左衛
門タハセリ。

高札場 御料ノ方ハ村ノ中程小名本村ニアリ。私
領ノ方ハ東ノ方小名川島ニアリ。

小名

川島 村ノ東北ノ方ニアリ。
原 前ノツ、キ。
打越 西ノ方ニアリ。
駒ヶ崎 和田村ノ境ヲ云。
关島 南ノ方ヲ云。
大和田 前ノツ、キナリ。

向臺 東南ノ方ニアリ。

峯下 北ノ方ニアリ。

新山 東ノ方ヲ云。

山川

井頭上水 水元ハ吉祥寺村ノ内井ノ頭池ヨリ出。

西ノ方和田村ヨリ當村ニイリ。村ノ西北ヲ流ル

、ノ十四五丁ニシテ。末ハ本郷村へ至ル。又善福

寺池ヨリ流出ル一条ノ水アリ。和田村サカヒニ

テオ十合。此水ヲ和泉村境ニテ引分。村内所々ノ

水田ニソ、ク。

神社

多田権現合社 除地二千三百三十二坪 村ノ中

稻荷 外ニ稻荷除地九十六坪

程ニテ平地ヨリ八九尺ハカリ高キ所ニアリ。石

階十五級ヲ設ク。ワツカナル社ニテ二間ニ三間

ノ拜殿アリ。南向。前ニ木ノ鳥居ヲタツ。鎮座ノ年

代詳ナラス。例祭九月廿六日。

氷川合社 除地六段 東北ノ方小名川島ニアリ。

ワツカノ社ニテ上屋一間ニ一間半。拜殿二間ニ

三門。東向。木ノ鳥居ヲ建。例祭九月廿八日。前ニアル所ノ多田権現ト隔羊ニ祭ル。村内正藏院持。

寺院

寶福寺

除地 千八坪

村ノ中程ニアリ。如意山ト号ス。新義真言宗ニテ。中野村寶仙寺ノ末。客殿六間ニ四間。南向。本尊聖德太子ノ立像。長二尺八寸ナルアリ。開山開基詳ナラス。

觀音堂 本堂ノ左ノ方ニアリ。三門四方。如意輪坐像。長一尺五寸ナルヲ安ス。

正藏院

除地 一段 二十步

小名川島ノ内ニアリ。圓通山海章寺ト号ス。是モ同宗同末ナリ。本堂ハ近キ頃。焼失セシヨリ未タ再造ニ及ハス。本尊正觀音ノ坐像。一尺五寸ナルヲ安ス。開山開基詳ナラス。

和田村

和田村ハ郡ノ東豊島郡ノ界ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失
フ。開墾ノ年代ハ詳ナラザレト。村内ハ幡ノ古社ア
ルヲ以テ見ルトキハ。古キ村ナルヲ疑ナシ。村名
ノ起ヲシラス。江戸日本橋ヨリ行程三里ハカリ。東
ハ雑色村。本郷村ニ界ニ。西ハ成宗村ニツキ。南ハ
和泉村ナリ。南ヨリ東ハ甲州街道小名萩窪。道向ヲ
ハ荏原郡代田村。豊島郡幡ヶ谷村ナリ。北ハ堀ノ内
村妙法寺道ヲ界トシテ。良ノ方ハ中野村ニ少シク

ツ、ケリ。カク入會シ村ナレハ里數モハカリガタ
ケレト。ソノ大抵ヲイハ、東西十三丁。南北十八丁。
甲列街道村ノ南ノ端ヲツラヌク。東豊島郡幡ヶ谷
村ヨリ。西當郡和泉村ニ達ス。民家百二十軒。當所ハ
御入國ノ後正保ノ頃ハ。内田勘右衛門カ知行ナリ。
シ由。ソレヨリ後今モ内田主計カ知ル所ナリ。檢地
ノ年月ハ。先年名主ノ家火災ニカ、リテ。古キ記録
ヲ失ヒタレハ詳ナラス。

高札場

村ノ北ノ方ニアリ。

小名

峯 中程ニアリ。

谷中 東ノ方ヲ云。

峯村 是モ東ノ方ナリ。

方南^{ハウナン} 東南ニヨリテアリ。

大宮 西ノ方ニテ八幡ノホトリナリ。

松ノ木 前ノツ、キニテ少シク北ヘヨ

レリ。

萩久保 南ノ方ヲ云。

本村原 北ノ方ニアリ。

水利

井ノ頭上水 村ノ西ノ方ヲ流ル。和泉村ヨリ来リ。雑色村ニ至ル。又逢野井村善福寺池ヨリ出ル水アリ。是ハ堀ノ内村ヨリ入。雑色村ニ達セリ。

神社

八幡社 除地六万坪 小名大宮ニアリ。社領 御朱印
三拾石。天正十九年附セラレ。別當大宮寺。神職中

野右近。社領ノ内十五石宛配當セリ。各當社ノ惣門ヨリ二丁程ヲ隔テラレリ。縁起ニ云。當社ハ人王七十年代

後冷泉院ノ御宇。天喜年中。奥列ノ夷賊蜂起セシ時。鎮守府將軍源頼義 勅ヲ蒙リ。奥州ニ向ヒ玉ハントテ。當所ヲ過キ玉フ時。空中ニ奇雲タナヒキ。サナリヲ白幡ノ如クナリケレハ。將軍奇異ノ思ヲナシ。是宇佐八幡ノ影向セルナラントテ。則當社ヲ勸請シ玉フ。因テ降幡山妙雲院ト号セリ。ソノ後

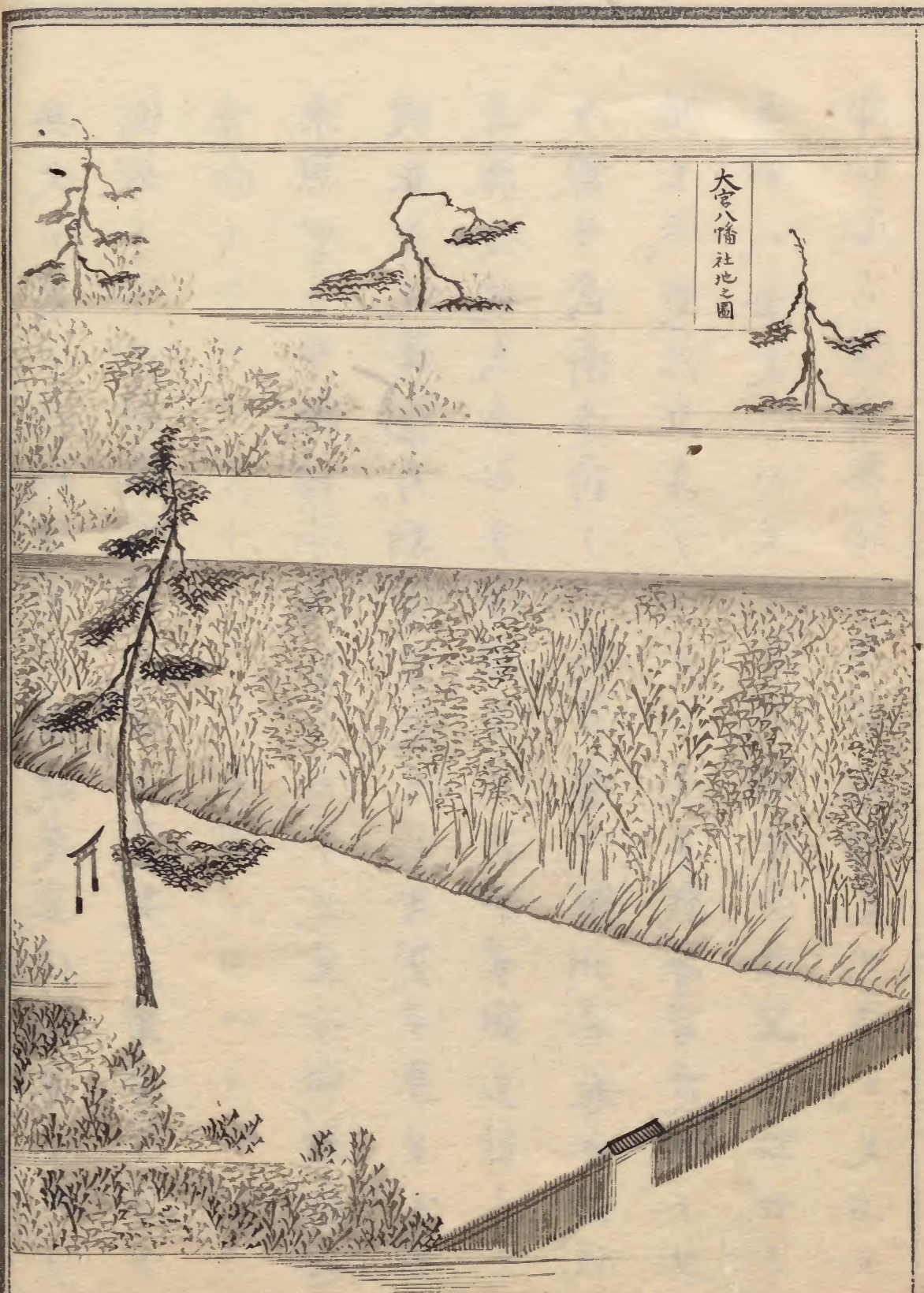
堀川院ノ御宇。奥列ノ武衛近國ヲナヤマシ。
王命ニソムキケレハ。寛治元年。源義家追討ノ
勅ヲ承ハリ。カノ地ニ向ヒ玉フ時。天喜ノ例ニ倣
テ。幣帛及ヒクサ、ヒノ寶物ヲ納メ玉フ。又遣ノ
星霜ヲヘテ。文治五年。鎌倉右大將泰衡追討ノ
勅ヲウケ。奥州ニ打向ハントテ。此所ヲ過キシ時。
山中ヨリ白鳩ニ羽飛タリシカハ。是ハ幡擁護ノ
奇瑞ナラントテ。イサミテ進發シ。日ナラスシテ
凶賊ヲ平ケ。梶原景時ヲシテ當社ニ幣帛ヲ奉セ
シム。シカルニ天文年中。長尾景虎ノ乱ニヨツテ。

兵火ノ爲ニ社壇コトクク燒失シ。什物等スヘテ
烏有トナリ一物ヲモノコサス。天正年中ニイタ
リ。

東照宮ヨリ神領ヲ附セラルト見エタリ。此縁起
天正十九年極月。別當某記セシモノナリトイヘ
ト。其後燒失セシヲ後人ツ、リナラセシモノニ
テ。殊ニ武衛追討ノ勅ヲ蒙リ。奥州ニ趣キ征伐
セシハ。寛治五年ノ事ニシテ。年代等モ定カナラ
サレハ。全文ヲハモラセリ。此等ノ事上リシ世ノ
事ナレハ。其詳ナルヲシラス。神主ノ傳ニ。文治五



六一



大宮八幡社地之圖

年。七月十九日。鎌倉右大將出陣ノ時。當社へ祈念
アリ。先陣畠山次郎重忠。此所ニ陣ヲトリ。其余三
浦平太義村。葛西三郎清重。二藤小次郎行光。同三
郎祐光。狩野五郎親光。藤澤次郎清近等。暫ク在陣
シ。遂ニ賊徒ヲ平ケ歸陣セリ。此日九月十九日ノ
トナレハ嘉例ナリトテ。祭禮ハ此日ニ定メタリ
ト云。東鑑ヲ閲ルニ。十月廿四日。右大將鎌倉御帰
著トアレハ。此頃ノ幸ヲ云ニヤ。サレトコトニ附
會ニイテタリト見ユレハ信シカタシ。或ハ云鎌
倉八幡ノ祭ハ。八月十五日ユヘ。當社ヲハ九月十

五。廿ニ定メタリシカ。先年玉川水溢ノトキ。渡船
ナシカタク。其日ヲノヘテ九月十九日ニ祭式ヲ
行ヒシヨリ。遂ニ此日トナレリトソ。

惣門 道ノ邊ニアリ。此道ハ古ヘノ鎌倉街道ナ
リト云。

鳥居 惣門ヲ入テ正面ニアリ。木ニテ造レルモ
ノナリ。

中門 惣門ヲ入テ百五拾間ハカリニアリ。一丈
ニ五尺。

本社 二間ニ一間高欄付。神躰三軀。木ノ立像ニ

テ各五寸ハカリ。作シレヌ。厨子三重ニシテ具
内ニ安ス。外厨子高二尺。中ハ高サ一尺五寸。内
ハ高サ一尺餘。前立一軀。木ノ立像ニシテ衣冠
セシ形ナリ。春日ノ作ト云。本地弥陀ノ立像ヲ
安ス。長一尺。脇士観音勢至。是モ木ノ立像ニテ
各七寸ハカリ。弘法ノ作ト云。傳ヘ云此三躰ハ。
應神天皇
仁徳天皇武内宿禰ナリ。コレヲ甲羅明神ト云。
拜殿 六間ニ二間半。向拜アリ。二間ニ一間。
護摩所 前ノツ、キニアリ。三間四方。

鐘樓 中門ヲ入テ左ノ方ニアリ。九尺四方。鐘ノ
ワタリニ尺六寸。宝永七年。六月十五日。鑄造。
神樂堂 拜殿ヨリ北ニヨリテアリ。二間ニ三間。
東照宮 御社ハ本社ノ後ニアリ。
末社

山神社
天満宮
太神宮
若宮社
稻荷社

三島社

右ノ六社。何レモ本社ノ左右ニアリ。小祠。

別當大宮寺

降幡山妙雲院ト号セリ。新義真言

宗ニテ。中野村宝仙寺ノ末ナリ。八幡ノ惣門マ

テ二丁餘ヲヘタテ別當ノ宅アリ。此内ニ古松

一株タテリ。古ヘ二ノ鳥居ノアリシ所ナリト。

又東ノ方ヘ四丁ハカリニモ一株ノ古松立リ。

是ハ一ノ鳥居ノアリシ所ナリト。戸ハ今堀

之内村ニ属ス。八幡ノ進退元宝仙寺ノ預ル所

ナリシカ。社地隔リテ不便ナレハ。永亨元年。當

寺ヲ起立シテユツレリト云。客殿八間ニ七間。

開山ヲ聖永ト云。寂年詳チラス。中興開基ヲ龍

山トス。元禄元年。六月七日示寂。本尊ハ不動ノ

立像ニテ長五尺。良辨ノ作ト云。脇士共ニ立像

ニテ長三尺五寸。永亨年中ノ開基ナレハ。古キ

記録モアリシカ。前ニモイフコトク。長尾景虎

ノ乱ニヨリ。兵火ニカ、リ鳥有セリトテ。今ハ

開山ノ名サヘ傳ヘス。古碑一基大門ノ通り。北

側堤ノ上ニアリ。文字磨滅シテミエス。刀藏ノ

痕アリ。傳ヘ云先年コノ碑夜中恠異ヲナシテ。

シハく人ヲ惱セシニヨリ。或旅人變化ノモノ
ナリト。誤テ刀ヲ又キ切カケシ具迹ナリト云。
信シカタキナリ。何人ノ造立セシヤ。其年登
ヲ傳ヘス。古キモノナルヲハウタカヒナシ。長
サニ尺八寸ハカリニシテ臺石アリ。五輪ノ形
ニ似タルモノナリ。

寺院

東圓寺

除地十五坪
村ノ北ノ方ニアリ。醫王山ト
号ス。新義真言宗ニテ。中野村宝仙寺門徒。本堂七

間ニ六間。本尊藥師ノ立像。長一尺ナルヲ安ス。開
山ヲ秀海ト云。示寂ノ年月詳ナラス。開基ハ村民
半六ト云モノナルヨシ云傳フレ也。其年月ヲ詳
ニセス。

石地藏六躰 本堂ノ東南ノ方ニアリ。共ニ長四
尺ハカリ。外ニ一躰アリ。是ハ長六尺餘。

觀音堂 本堂ノ西南ノ方ニアリ。二間半四方ノ
堂ニテ。觀音ノ像ハ長六寸三分。厨子ノ中ニア
リ。

真峰庵

羊貢地百
五十坪
村ノ中程小名峯ニアリ。二間

半四方。本尊不動ノ座像。長一尺九寸。開山ヲ即山
ト云。延享四年。十一月十一日寂ス。開基ハ前ニヲ
ナシク村民半六十リト云傳フ。

念佛堂

羊貞地 五間
六間程

小名方南ニアリ。二間四

方。本尊彌陀ノ立像。長一尺八寸。脇士觀音勢至。共
ニ木像。長七寸。外ニ地藏ノ像アリ。銅佛ニテ長三
寸二分。此堂ハ正保元年。一安トイヘル僧開基セ
リト。天和二年。七月十五日示寂。在原郡中目黒村
祐天寺ノ持ナリ。

塚

十三塚 東圓寺ノ北ノ方ニアリ。則此寺ノ持ナリ。
其中西ニヨリタルハ頗ル大ナリ。高サ四尺ハカ
リ。餘ハイツレモ高サ二尺餘。其来由ヲ詳ニセス。
又馬橋村界ニ一塚アリ。高サ二丈ハカリ。敷八間。
是モ来歴ヲ傳ヘス。

